

世界史B 近現代 2, 19世紀ヨーロッパの思潮

1, 古典主義とロマン主義

18世紀末~19世紀ドイツ---人間性の完成をめざす()1主義の文学

晩年のゲーテ(1749~1832)とシラー(1759~1805)=古典主義の頂点

ゲーテの『ファウスト』など→後世にも大きな影響

古典主義の絵画

フランス ダヴィッド(1748~1825) 『 』2など

アンゲル(1780~1867) 『 』3など

19世紀の欧米---民族の個性と歴史、人間の情感を称揚→()2主義

文学・美術・音楽の領域で多くの作品

ロマン主義の先駆→若き日のゲーテ、シラー「シュトルム=ウント=ドランク(疾風怒濤)」

バイロン(1788~1824)---[]4独立戦争に参加。 『キオス島の虐殺』 『 』5など

ハイネ(1797~1856)---フランス七月革命に共感。 『 』6など

プーシキン(1799~1837)---ロシアの()7運動を支持。 『大尉の娘』=プガチョフの乱を題材に 『 』8など

ユゴー(1802~1885) ---七月王政から第二共和制期の政治家、作家。共和主義を支持。 『 』9など

美術 ゴヤ(1746~1828)---宮廷画家だが、動乱期のスペインを象徴する作品も。自由主義への弾圧を避けて晩年フランスへ亡命。 『着衣のマハ』 『 』など

ドラクロワ(1798~1863)ら⇒古典主義の様式美とは異なる色彩、テーマ。 『キオス島の虐殺』 『 』10など

音楽 ベートーヴェン(1798~1863)---古典派からロマン派への橋渡し

シューベルト(1797~1828)、ショパン(1810~49)ら

ワグナー(1813~83)---19世紀後半に壮大な楽劇を創始

ボヘミア楽派=スメタナ(1824~84)=交響詩 『チェコ舞曲集』 『 』11 など

ドボルザーク(1841~1904) 『()12舞曲集』、交響曲、序曲など

○ロマン主義のおもな作家と作品

- ゲーテ(独) 『 』13 ワズワース(英) 『抒情詩選』
- スコット(英) 『アイヴァンホー』 シラー(独) 『 』14
- バイロン(英) 『チャイルド=ハロルドの遍歴』 グリム兄弟(独) 『グリム童話集』『伝説集』
- ハイネ(独) 『歌の本』 シヤトーブリアン(仏) 『アタラ』『ルネ』

2, 人文・社会科学

ドイツ()15論哲学

フィヒテ(1762~1814)、シェリング(1775~1854)を経て

ヘーゲル(1770~1831)の弁証法哲学に大成 『精神現象学』『大論理学』『法の哲学』

史的()16論

マルクス(1818~83)---ヘーゲル哲学を組みかえ→「唯物史観」を樹立 『 』17

社会主義思想の哲学的基礎

()18主義

キェルケゴール(1813~55)---20世紀のハイデッガー、サルトルらの祖 『 』

イギリス---経験論の伝統

ベンサム(1748~1832), ミル(1806~73), スペンサー(1820~1903) 『道徳及び立法の諸原理序説』など

「最大多数の最大幸福」を主張する→()19主義の哲学

フランス---コント(1798~1857)の()20主義哲学→人文・社会科学に大きな影響

『実証哲学講義』など

19世紀→ロマン主義の影響

歴史学の発達→近代()21学---ランケ(1795~1886)ら 『プロイセン史』『フランス史』など

厳密な史料批判→正確な事実をありのままに示す

法学→()22法学---ドイツのサヴィニー(1779~1861)ら 『現代ローマ法体系』など

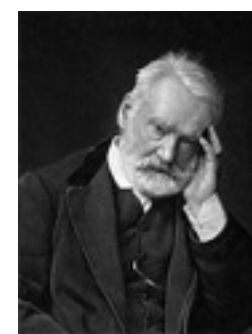
前代の自然法重視→各国民固有の法の歴史的形成過程を重視



ゲーテ



グリム兄弟



ユゴー



ゴヤ(自画像)



ドラクロワ



アルプスを越える
ナポレオン



グランド・オダリスク



民衆を導く自由の女神



シューベルト



ドボルザーク



スメタナ



ショパンの肖像
(ドラクロワ)



ヘーゲル

- ・古典 ・観念 ・経験 ・功利 ・実証 ・歴史(2) ・唯物 ・実存 ・ロマン ・スラブ ・デカプリスト
- ・『群盗』 ・『資本論』 ・『オネーギン』 ・『わが祖国』 ・『死に至る病』 ・『レニミゼラブル』
- ・『若きヴェルテルの悩み』 ・『グランド・オダリスク』 ・『マドリード1808年5月3日』
- ・『民衆を導く自由の女神』 ・『アルプスを越えるナポレオン』 ・『エフゲニー=オネーギン』